

日本ID陸上競技選手権大会への参加者厳守事項

日本知的障がい者陸上競技連盟が定めた「陸上競技活動再開についてのガイドライン 競技会開催について」の内容を踏まえて競技会を運営します。
手洗いや消毒、選手の動線など主催者の指示に従い、競技会に参加してください。

- ① 体調管理チェックシートの作成。（競技会2週間前からの健康チェックを行う）
※体調管理チェックシートは、当日、受付に提出する。未提出者は競技会には参加できない。また、体調管理チェックシートは主催者が管理・利用することを了承する。
- ② 大会参加にあたってのチェックリスト（参加者留意事項）と同意書の提出。（当日、受付へ提出する）
- ③ 不確かな入場者がいた場合は、その場で検温を実施し、状況により参加・入場を許可しない場合がある。
事例：一見して体調が悪そうに見える、顔がほてっている、咳・鼻水（風邪）の症状が見られるなど。
- ④ 運動時を除きマスクの着用を義務とし、主催者はマスクを着用していない人に対して注意を促す。
- ⑤ 手洗い・手指の消毒・洗顔の徹底を呼びかける。
- ⑥ 競技開始の2時間30分よりも早く競技場に来ないこと。
※出場選手の競技が終了したら、できる限り速やかに帰宅すること。
- ⑦ 競技場施設に入場できるのは、競技役員、選手、支援者(1名まで)とする。
※支援者も受付にて『体調管理チェックシート』と『大会参加にあたってのチェックリスト』および『同意書』を提出する。
- ⑧ 選手・支援者等の待機スペースとして、スタンドの使用は不可とする。
- ⑨ 選手はビニール袋(40リットルサイズ以上)、1枚を用意し、氏名を記入すること。
※ビニール袋は招集後、荷物を入れて待機場所に置いておくために使用する。
- ⑩ 各自で出したゴミは必ず持ち帰ること。
- ⑪ 競技会は無観客で実施するため大きな声を出しての応援は個人、集団問わず禁止する。
- ⑫ 競技場内では三密を避けるように工夫をすること。なお、競技者と支援者等の接触については、両者の合意及び感染予防策の励行、ガイドラインの順守を前提に認める。
- ⑬ 運動中につばや痰を吐くことは極力行わない
- ⑭ 更衣は、更衣用テントを利用する。利用者は三密を避け、利用は短時間を心掛ける。更衣後は速やかに退場する。

シャワー室は使用できない。

< 招集について >

(1) 招集

- ① 種目・組ごとに時間を設定して行う。その際、係員の誘導に従うこと。招集場所に早く来すぎることをしないよう注意する。
- ② 腰ナンバーカードについては、シールタイプを全員配布する。

(2) 招集後から競技開始まで

- ① 招集完了後、係員の誘導により選手は待機場所へ移動する。待機場所のベンチもしくはエリアに、組ごとに集まり、選手は競技の準備を行う。その後、係員の誘導により競技場所へと移動する。競技開始前に荷物をビニール袋に入れ競技後スムーズに退場できるようにしておく。競技前のウォーミングアップは公園内で密にならないように行う。競技場所では、競技役員の指示に従う。

< 「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」について >

- ・厚生労働省がスマートフォンの近接通信機能（Bluetooth）を使って新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性を通知する「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」の運用を2020年6月19日から開始しました。

この接触確認アプリが広く活用されることで、感染拡大の防止につながることを期待されます。

参加者の皆様におかれましては、接触確認アプリをご活用いただき、安全・安心を守るとともに感染拡大防止にご協力ください。

アプリの概要、インストール方法、利用規約、利用者向けQ&A、プライバシーポリシーなどは、厚生労働省のWebページをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html

- ※ 競技会運営・感染防止対策については、特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟のガイドラインに準ずる。